

# Gemini 3 Pro と知的財産業務の変革：推論、マルチモーダル、長文脈によるパラダイムシフト

Gemini

## エグゼクティブサマリー

2025 年 11 月 18 日、Google は同社史上最も高度な AI モデルである **Gemini 3 Pro** をリリースしました。このモデルは、従来の生成 AI が抱えていた推論能力の欠如、視覚情報の断絶、そして文脈理解の限界という「三重の壁」を打ち破る技術的特異点を示しています<sup>1</sup>。知的財産（IP）の分野において、これまでの AI 活用はキーワード検索の効率化や定型的な文書作成支援といった補助的な役割に留まっていました。しかし、**Gemini 3 Pro** が導入した「思考レベル（Thinking Level）」の動的制御、テキスト・画像・動画・コードをシームレスに扱うネイティブ・マルチモーダル処理、そして 100 万トークンを超える超長文脈ウィンドウは、IP 業務の本質を「人間による作業」から「AI エージェントとの協働」へと根本的に再定義しようとしています。

本レポートでは、**Gemini 3 Pro** の技術仕様と初期ベンチマーク結果に基づき、特許調査、明細書作成、侵害訴訟、デューデリジェンスといった主要な IP 業務がどのように変革されるかを包括的に分析します。特に、**Google Antigravity** プラットフォームによる自律的エージェントの台頭、思考シグネチャ（Thought Signatures）による法的幻覚（ハルシネーション）の抑制、そして「Vibe Coding」の概念を応用した「Vibe Drafting」といった新たな業務形態に焦点を当て、次世代の IP 実務の姿を描き出します。

---

## 1. Gemini 3 Pro の技術的基盤と IP 革命の文脈

知的財産業務へのインパクトを理解するためには、まず **Gemini 3 Pro** が達成した技術的飛躍を

詳細に解剖する必要があります。従来の LLM（大規模言語モデル）は、確率的なトークン予測に依存しており、複雑な法的論理の構築や、図面と請求項（クレーム）の整合性確認といった高度な推論を要するタスクには不向きでした。Gemini 3 Pro は、これらの課題に対し、アーキテクチャレベルでの解決策を提示しています。

## 1.1. 「思考レベル（Thinking Level）」パラメータによる推論の深化

Gemini 3 Pro の最大の特徴は、モデルの推論深度をユーザーが制御できる「Thinking Level」パラメータの導入です<sup>1</sup>。従来のモデル（Gemini 2.5 世代など）では `thinking_budget` としてトークン数を指定する形でしたが、Gemini 3 ではこれをより直感的な `low` または `high` のレベル設定へと進化させました<sup>3</sup>。

IP 業務において、この機能は極めて重要な意味を持ちます。例えば、書誌情報の抽出や形式的な誤記訂正といったタスクには `low` レベルを設定し、高速かつ低コストな処理を行います。一方で、特許の進歩性（Obviousness）の判断や、侵害訴訟におけるクレーム解釈（Claim Construction）といった高度な法的判断が必要な場面では `high` レベル（Deep Think モード）を適用します<sup>5</sup>。

このモードにおいて、モデルは回答を出力する前に内部的な「思考プロセス」を実行します。これは人間の弁理士が、結論を出す前に判例や審査基準を脳内で反芻し、論理の整合性を検証するプロセスに相当します。ベンチマークにおいて、Gemini 3 Pro は博士号レベルの科学知識を問う GPQA Diamond で 91.9%、ツールの使用なしでの「Humanity's Last Exam」で 37.5% という驚異的なスコアを記録しており、専門家レベルの推論が可能であることを示唆しています<sup>6</sup>。これにより、単なる情報検索ではない、「法的助言の草案作成」が現実的な視野に入ってきました。

## 1.2. 真のマルチモーダル：テキストと視覚情報の融合

特許文献や意匠公報は、テキストだけで構成されているわけではありません。詳細な実施例を示す図面、化学構造式、フローチャート、さらには近年増加しているソフトウェア特許における UI/UX のスクリーンショットなど、視覚情報は法的権利範囲を解釈する上で不可欠です。

これまでの AI ワークフローでは、OCR（光学文字認識）で画像をテキスト化するか、画像認識モデルと言語モデルを別々に動かす必要がありました。しかし、Gemini 3 Pro はテキスト、画

像、音声、動画、コードを同一のモデル内でネイティブに処理します<sup>8</sup>。MMM-U-Pro（マルチモーダル理解・推論）ベンチマークにおいて、Gemini 3 Pro は 81.0% というスコアを叩き出し、前世代の Gemini 2.5 Pro（68.0%）や競合の GPT-5.1（76.0%）を大きく引き離しました<sup>6</sup>。

この能力は、特許図面から構成要件を自動抽出したり、先行技術として YouTube 動画の内容を解析したりする業務を可能にします。特に、動画理解能力（Video-MMMU で 87.6%）は、製品の動作デモ動画から侵害の証拠を見つけ出すといった、これまで人手でしか行えなかった調査業務を自動化するポテンシャルを秘めています<sup>6</sup>。

### 1.3. 100 万トークンの文脈と「包袋」の完全把握

「コンテキストウィンドウ」の拡大は、IP 業務における情報の断片化問題を解決します。Gemini 3 Pro は標準で 100 万トークンの入力に対応しています<sup>11</sup>。特許出願から登録、さらには審判や訴訟に至るまでの膨大な書類群（File Wrapper / 包袋）は、数千ページに及ぶことがあります。100 万トークンあればこれら全てを一度にモデルに入力し、全体を俯瞰した分析が可能になります。

従来の「RAG（検索拡張生成）」技術では、文書を細切れ（チャンク）にして検索するため、文書間の離れた場所に存在する因果関係や矛盾を見落とすリスクがありました。Gemini 3 Pro は、文書全体を「短期記憶」として保持できるため、例えば「5 年前の拒絶理由通知に対する応答書で、出願人がクレームの範囲を限定する発言をしていないか？」といった、禁反言（Estoppel）に関わる高度な問いに対しても、全履歴に基づいた正確な回答を提示できます

<sup>13</sup>。

---

## 2. 先行技術調査とノベルティ判断の自律化

特許制度の根幹をなす「新規性（Novelty）」と「進歩性（Inventive Step）」の判断は、従来、サーチャーと呼ばれる専門職が膨大なデータベースを検索し、目視で確認する労働集約的なプロセスでした。Gemini 3 Pro は、このプロセスを「キーワード検索」から「概念検索（Concept Search）」へ、そして「自律的エージェントによる調査」へと変革します。

## 2.1. キーワード依存からの脱却：セマンティック概念検索

従来の特許検索における最大の課題は「言葉の揺らぎ」でした。例えば、「ドローン」に関する特許を探す際、「無人航空機」「UAV」「回転翼機」といった類義語を網羅的に検索式（クエリ）に組み込む必要がありました。しかし、**Gemini 3 Pro**の高度な言語理解能力は、単語そのものではなく、その背後にある「技術的思想（**Technical Concept**）」を理解します<sup>15</sup>。

**Gemini 3 Pro**を活用した検索システムでは、発明提案書をそのまま入力するだけで、モデルがその技術的特徴を分解し、異なる用語で表現されていても技術的に類似した文献を検出します。これは単なるベクトル検索を超え、発明の「課題」「解決手段」「効果」という論理構造に基づいたマッチングを行うため、ノイズ（非関連文献）を排除しつつ、高い再現率

（**Recall**）を実現します。**Patsnap**などの先進的なツールでは、**AI** エージェントが技術用語のニュアンスや同義語を認識し、キーワード検索が見落とすような概念的に類似した特許を特定することで、検索時間を最大 **70%** 削減しつつ精度を向上させていると報告されています<sup>17</sup>。

## 2.2. マルチモーダル・エージェントによる図面検索

機械・構造系の特許や意匠（デザイン）特許において、テキスト検索の限界は顕著です。形状や配置の特徴を言葉で表現するのは難しく、また検索漏れの原因となります。**Gemini 3 Pro**のマルチモーダル能力は、図面や**CAD**データ、手書きのスケッチを入力とする「画像検索」を実用レベルに引き上げました。

ユーザーが手書きのラフスケッチをアップロードすると、**Gemini 3 Pro**はその形状的特徴（例：部品の接続関係、曲率、配置）を認識し、特許データベース内の数億枚の図面の中から類似するものを瞬時にリストアップします<sup>18</sup>。これは特に意匠権の侵害調査（**Freedom to Operate**）において革命的で、従来は、製品の外観が既存の意匠権を侵害していないか確認するために、サーチャーが何千もの画像をスクロールして確認する必要がありましたが、**AI**が視覚的な類似度に基づいてリスクの高い順に提示することで、このプロセスは劇的に効率化されます。

## 2.3. 自律型調査エージェントの台頭

最もインパクトのある変化は、検索プロセス自体の自律化です。「**Google Antigravity**」のよう

なエージェント開発プラットフォームを活用することで、人間がクエリを試行錯誤するのではなく、AI エージェントが自律的に調査計画を立案・実行するワークフローが実現します<sup>20</sup>。

具体的なシナリオは以下の通りです：

1. **タスク受領:** 弁理士がエージェントに対し、「この発明提案書について、米国と欧州での特許性を調査せよ」と指示。
2. **構成要件の分解:** エージェントは発明を構成要件 (A, B, C) に分解し、それぞれの技術的特徴を特定<sup>22</sup>。
3. **検索戦略の立案:** エージェントは自律的に複数の検索クエリと特許分類 (CPC/IPC) の組み合わせを生成<sup>23</sup>。
4. **反復的実行と修正:** 検索を実行し、初期結果を分析。ノイズが多い場合はクエリを修正し、再検索を行う (Self-Correction)。また、検索された文献の引用文献 (Forward/Backward Citations) を辿り、調査範囲を拡大する。
5. **レポート生成:** 最終的に、関連性の高い文献を抽出し、発明との対比表 (クレームチャート) を作成して人間に報告する<sup>24</sup>。

このプロセスにおいて、Gemini 3 Pro の「思考レベル: High」は、文献が単に関連しているだけでなく、発明の新規性を否定する論理的根拠（例えば、構成要件 A と B が同一文献に記載されているか）を推論するために使用されます。SciSpace などのツールは既にこのようなエージェントベースのワークフローを実装し始めており、FTO 調査における「ハイブリッド検索（セマンティック＋分類コード）」の自動化を進めています<sup>23</sup>。

---

## 3. 特許明細書作成の変革：「Vibe Drafting」とマルチモーダル生成

特許明細書の作成（ドラフティング）は、高度な技術的理解と法的文章力の双方が求められる、知財業務の中で最も付加価値の高い領域の一つです。Gemini 3 Pro は、開発者向けに提唱された「Vibe Coding」の概念を IP 領域に応用した「Vibe Drafting」を実現しつつあります<sup>7</sup>。

### 3.1. 「Vibe Drafting」：曖昧なアイデアからの仕様書生成

「Vibe Coding」とは、自然言語による曖昧な指示から、AI が文脈や意図 (Vibe) を汲み取り、動作するコードを生成する機能です<sup>7</sup>。これを特許業務に応用すると、発明者の断片的な

アイデアメモ、ホワイトボードの写真、口頭での説明録音といった非構造化データから、完全な特許明細書の草案を生成することが可能になります。

Gemini 3 Pro のマルチモーダル機能は、ここで遺憾なく発揮されます。

- **フローチャートの論理変換:** ホワイトボードに描かれた手書きのフローチャート画像を認識し、それを Mermaid 記法やテキストベースの処理フロー説明に変換します<sup>19</sup>。Gemini 3 Pro は図中の分岐条件やループ処理を正確に理解し、「ステップ S101 において、制御部は..」といった実施例の記述を自動生成します。
- **回路図・構造図の解析:** 回路図や機械図面を読み込み、各部品の名称と接続関係を特定して、「図 1 に示すように、プロセッサはメモリとバスを介して接続され..」といった詳細な説明文を作成します<sup>26</sup>。特許図面データセットを用いた研究では、詳細な記述生成において AI の有効性が示されています<sup>26</sup>。
- **クレームの階層化:** 発明の核となるアイデアを抽出し、最も広い権利範囲を持つ独立クレームから、実施態様に応じた従属クレームまでを階層的にドラフトします<sup>27</sup>。

## 3.2. エージェントによる推敲と品質管理

作成されたドラフトの品質管理においても、Gemini 3 Pro は強力なパートナーとなります。Google Antigravity 上のエージェントは、作成された明細書に対して「自己検証 (Self-Validation)」を行います<sup>20</sup>。

- **先行技術との差別化チェック:** ドラフト作成と並行して検索を行い、類似技術が見つかった場合、クレームの文言を微修正して差異を明確化する提案を行います。
- **用語の統一性チェック:** 明細書全体 (100 万トークン以内) をスキャンし、用語の使用に不整合がないか (例: 「第 1 部材」と「第 1 要素」が混在していないか)、またクレームで使用されている用語が詳細な説明で定義されているか (サポート要件、35 U.S.C. § 112 を検証します<sup>28</sup>)。
- **形式要件の確認:** 出願国の法制度に基づき、図面の参照符号の整合性や、クレームの形式的要件 (アンテセデント・ベシスなど) を自動チェックします<sup>29</sup>。

## 3.3. 中間処理 (Office Action ) への応答

特許庁からの拒絶理由通知 (Office Action ) に対する応答も、Gemini 3 Pro によって効率化されます。審査官の拒絶論理は複雑であり、引用文献との緻密な対比が必要です。



Gemini 3 Pro は、拒絶理由通知書と引用文献（PDF）、そして本願明細書をコンテキストウィンドウに読み込み、以下の分析を行います：

1. **拒絶理由の要約:** 審査官がどの認定に基づき、どの法条文（新規性・進歩性など）を適用したかを抽出。
2. **引用文献の精査:** 審査官が指摘する引用文献の記載箇所を特定し、本願発明との差異を分析。ここでは「Thinking Level: High」を活用し、審査官の認定の論理的欠陥（例：引用文献には記載されていない事項を認定している、事後的な分析に基づく動機付けである等）を推論します。
3. **反論書のドラフト:** 抽出された差異に基づき、反論の骨子や補正案を作成します。Mark Humphries 教授（ローレンシャン大学）のような専門家による実験でも、Gemini 3 Pro は歴史的文書や複雑なテキストの分析において高い能力を示しており、法的文書の論理構成においても同様の貢献が期待されます<sup>30</sup>。

---

## 4. 侵害訴訟とデューデリジェンスにおける「全量」分析

知的財産権を巡る紛争や企業買収（M&A）においては、対象となる特許や契約書の解釈が数億ドル規模の損害賠償や取引額に影響を与えます。Gemini 3 Pro の 100 万トークンコンテキストと高度な推論能力は、リスクの見落としを許さないこの領域において、人間には不可能なレベルの「全量分析」を実現します。

### 4.1. 包袋禁反言（Prosecution History Estoppel）の検出

特許侵害訴訟において、被告側はしばしば「包袋禁反言」を主張します。これは、特許権者が審査段階で特許庁に対して行った主張（例えば、「私の発明は A という特徴があるので、先行技術 B とは異なります」といった発言）によって、権利範囲が制限されるという法理です。これを確認するためには、数年分にわたる審査書類（包袋）を全て読み込む必要があります。

Gemini 3 Pro は包袋全体をメモリに保持し、自然言語での質問に答えることができます。「出願人は『弾性部材』の定義について、審査過程でどのような限定を加えたか？」といった問いに対し、AI は数千ページの履歴の中から該当する応答書の日付と段落を特定し、その法的含意を解説します<sup>14</sup>。Box AI と Gemini 3 Pro を組み合わせたデモでは、181 ページに及ぶ複雑な財務書類（Form 10-K）からの情報抽出と推論において高い性能が確認されており、同様の文書構造を持つ法的書類においても高い効果が実証されています<sup>14</sup>。

## 4.2. クレームチャートの自動生成と侵害分析

「クレームチャート (Element-by-Element Chart)」は、特許の各構成要件と、対象製品（イ号物件）の仕様を対比させる表です。これを作成するには、製品マニュアル、技術仕様書、回路図、ソースコードなどの多様な証拠資料を分析する必要があります。

Gemini 3 Pro は、製品の技術文書 (PDF) や写真、さらには製品の動作を撮影したビデオを入力として受け取り、特許クレームとの対応関係を分析します<sup>34</sup>。

- **視覚的証拠の特定:** 「クレーム第 1 項の『回転機構』に相当する部分は、製品マニュアルの図 3 の部品番号 45 である」といった特定を、画像の理解に基づいて行います。
- **論理的推論:** 単なる形状の一致だけでなく、機能的な一致 (Function-Way-Result テストなど) についても、「Thinking Level: High」を用いて論理的な推論を展開します。

## 4.3. デューデリジェンスにおける矛盾検知

M&A における IP デューデリジェンスでは、大量のライセンス契約書をレビューし、「チェンジ・オブ・コントロール条項（買収時に契約が解除される条項）」や「排他的ライセンスの重複」などのリスクを洗い出す必要があります。

Gemini 3 Pro は、データルーム内の全契約書を横断的に分析し、契約間の矛盾を検知する能力に優れています<sup>36</sup>。例えば、「契約 A では独占権を与えているが、契約 B では同じ地域で別の企業に販売権を与えている」といった矛盾を、人間が見落としがちな微妙な表現の違いも含めて指摘します。CLAUSE ベンチマークなどの研究では、法的な矛盾検知において LLM が有用であることが示されており、Gemini 3 Pro の推論能力はこれを実務レベルに引き上げます<sup>37</sup>。

---

## 5. エージェント AI と「Google Antigravity」による開発環境の変革

Gemini 3 Pro のリリースと同時に発表された「Google Antigravity」は、AI を単なる「ツール」から「能動的なパートナー（エージェント）」へと昇華させるプラットフォームです<sup>20</sup>。



これは IP 分野における「リーガルテック」の開発と運用を根本から変えます。

## 5.1. エージェントによる IP 業務の自動化ワークフロー

Antigravity 上のエージェントは、エディタ、ターミナル、ブラウザへの直接アクセス権を持ち、自律的にタスクを計画・実行・検証します<sup>20</sup>。これは、従来人間が行っていた複雑な IP ワークフローを AI が代行できることを意味します。

- **IP ランドスケープの自動更新エージェント:** エージェントは定期的に特許データベースにアクセスし、競合他社の最新出願を監視。新しい特許が公開されると、その内容を解析し、自社のポートフォリオに対する脅威度をスコアリングして、社内のチャットツール（Slack 等）にレポートを投稿する、といった一連の動作を自律的に行います。
- **自律的なコーディングとツール開発:** 弁理士や知財部員がプログラミングの専門知識を持っていなくても、「競合 A 社の特許出願推移を可視化するダッシュボードを作って」と指示するだけで、Antigravity 上のエージェントが Python コードを書き、必要なライブラリをインストールし、ブラウザ上で動作確認を行い、完成したアプリを提供します（Vibe Coding）<sup>7</sup>。

## 5.2. 信頼性と透明性の担保

Antigravity の重要な設計思想は「信頼（Trust）」と「成果物（Artifacts）」です<sup>40</sup>。エージェントがどのような手順で作業を行ったか、どのツールを使用したかというプロセスが可視化され、また作業の途中経過（中間成果物）が保存されます。これにより、ユーザーはエージェントの作業をブラックボックス化させず、必要に応じて介入や修正を行うことが可能です。IP 業務のような法的責任を伴う作業において、この透明性は採用の必須条件となります。

---

## 6. リスク管理と倫理的課題：幻覚と機密保持

Gemini 3 Pro は強力なツールですが、法的業務への適用には固有のリスクが伴います。特に「ハルシネーション（もっともらしい嘘）」と「データプライバシー」は最大の懸念事項です。

## 6.1. 法的ハルシネーションと「思考シグネチャ（Thought Signatures）」

過去には、生成 AI が実在しない判例を捏造し、それを裁判所に提出した弁護士が制裁を受けるという事件（Mata v. Avianca）が発生しました<sup>41</sup>。Gemini 3 Pro は、このリスクを低減するために「思考シグネチャ（Thought Signatures）」というメカニズムを導入しています<sup>1</sup>。

思考シグネチャは、モデルの内部的な推論プロセスを暗号化された形式で保存・追跡する機能です。これにより、モデルが回答を生成する際に「確信を持って事実を述べている」のか、「情報が不足している中で推測している」のかをシステム側で判別することが可能になります。また、マルチターンの対話においても文脈が保持されるため、対話が進むにつれて論理が破綻するリスクを抑制します<sup>43</sup>。さらに、Google 検索や信頼できるデータベースへのグラウンディング（Grounding）機能を併用することで、引用される判例や条文が実在することをリアルタイムで検証し、ハルシネーションを最小限に抑えます<sup>2</sup>。

## 6.2. エンタープライズグレードのセキュリティとプライバシー

未公開の特許出願内容や、訴訟戦略に関わる機密情報は、企業の核心的資産です。これらをパブリックな AI モデルに入力することは、情報漏洩のリスクがあります。

Google は Gemini 3 Pro を、高いセキュリティ基準を持つ「Vertex AI」および「Gemini Enterprise」を通じて提供しています<sup>9</sup>。エンタープライズ契約においては、ユーザーの入力データがモデルの再学習に使用されないことが保証されています<sup>2</sup>。これにより、法律事務所や企業の知財部門は、自社の「プライベートな」環境内で Gemini 3 Pro を安全に利用し、機密性の高い包袋分析やドラフティングを行うことができます。

---

## 結論：AI 時代の知的財産プロフェッショナル

Gemini 3 Pro の登場は、知的財産業務における「AI 利用」のフェーズを、単なる効率化ツールから「知的パートナー」へと移行させました。100 万トークンの文脈理解、マルチモーダルな分析能力、そして思考レベルの制御可能な推論能力は、これまで人間にしかできないとされてきた「判断」や「創造」の領域に AI が踏み込むことを可能にしました。

今後、IP プロフェッショナルの役割は、書類を作成する「作業者」から、AI エージェントを指揮し、その成果物を法的な観点から監督する「オーケストレーター」へと変化していくでしょう。キーワード検索やクレームチャートの作成といった定型業務は AI に委ねられ、人間はより高度な戦略立案、クライアントへのコンサルティング、そして AI が提示した推論の倫理的・法的妥当性の最終判断に注力することになります。Gemini 3 Pro は、知財業界における生産性と品質の基準を劇的に引き上げ、新たなイノベーションの加速装置となることが約束されています。

| 業務領域      | 従来の課題                   | Gemini 3 Pro による解決策                    | 期待される効果                    |
|-----------|-------------------------|--|----------------------------|
| 先行技術調査    | キーワード不一致による検索漏れ、図面確認の負担 | セマンティック概念検索、画像ベースの類似検索、自律エージェント        | 調査精度の向上、意匠調査の自動化、検索時間の短縮   |
| 明細書作成     | 発明者からの情報抽出の困難さ、属人化      | Vibe Drafting (マルチモーダル入力からの生成)、自動推敲    | ドラフト作成の迅速化、品質の均一化、発明発掘の容易化 |
| 侵害・FTO 分析 | 膨大な包袋の読み込み、手動での対比表作成    | 100 万トークンでの全量分析、マルチモーダル証拠分析            | リスク見落としの低減、クレームチャート作成の自動化  |
| リーガルテック   | 開発コストと専門知識の壁            | Vibe Coding (自然言語によるツール開発)、Antigravity | 事務所・企業ごとのカスタムツールの民主化       |

本レポートが示す通り、技術的特異点は既に到来しています。今求められるのは、この新しい知性をどのように業務プロセスに統合し、法的リスクを管理しながら最大限の価値を引き出すかという、実務的な適応力です。

## 引用文献

1. Release notes | Gemini API- Google AI for Developers, 11 月 20, 2025 にアクセス、<https://ai.google.dev/gemini-api/docs/changelog>

2. Gemini 3 Pro | Generative AI on Vertex AI - Google Cloud Documentation, 11 月 20, 2025 にアクセス、<https://docs.cloud.google.com/vertex-ai/generative-ai/docs/models/gemini/3-pro>
3. Gemini - Google AI Studio - LiteLLM, 11 月 20, 2025 にアクセス、<https://docs.litellm.ai/docs/providers/gemini>
4. Get\_started\_thinking\_REST.ipynb - Colab - Google, 11 月 20, 2025 にアクセス、[https://colab.research.google.com/github/google-gemini/cookbook/blob/main/quickstarts/Get\\_started\\_thinking\\_REST.ipynb?hl=th](https://colab.research.google.com/github/google-gemini/cookbook/blob/main/quickstarts/Get_started_thinking_REST.ipynb?hl=th)
5. Google Gemini 3 Benchmarks - Vellum AI, 11 月 20, 2025 にアクセス、<https://www.vellum.ai/blog/google-gemini-3-benchmarks>
6. Gemini 3 Pro - Google DeepMind, 11 月 20, 2025 にアクセス、<https://deepmind.google/models/gemini/pro/>
7. Start building with Gemini 3, 11 月 20, 2025 にアクセス、<https://blog.google/technology/developers/gemini-3-developers/>
8. Google's Gemini 3 Pro turns sparse MoE and 1M token context into a practical engine for multimodal agentic workloads, 11 月 20, 2025 にアクセス、<https://www.marktechpost.com/2025/11/18/googles-gemini-3-pro-turns-sparse-moe-and-1m-token-context-into-a-practical-engine-for-multimodal-agentic-workloads/>
9. Gemini 3 is available for enterprise, 11 月 20, 2025 にアクセス、<https://cloud.google.com/blog/products/ai-machine-learning/gemini-3-is-available-for-enterprise>
10. Trying out Gemini 3 Pro with audio transcription and a new pelican benchmark, 11 月 20, 2025 にアクセス、<https://simonw.substack.com/p/trying-out-gemini-3-pro-with-audio>
11. Gemini 3 Developer Guide | Gemini API - Google AI for Developers, 11 月 20, 2025 にアクセス、<https://ai.google.dev/gemini-api/docs/gemini-3>
12. Gemini 3 Pro Preview – Vertex AI - Google Cloud Console, 11 月 20, 2025 にアクセス、<https://console.cloud.google.com/vertex-ai/publishers/google/model-garden/gemini-3-pro-preview>
13. Gemini 1.5: Unlocking multimodal understanding across millions of tokens of context - Googleapis.com, 11 月 20, 2025 にアクセス、[https://storage.googleapis.com/deepmind-media/gemini/gemini\\_v1\\_5\\_report.pdf](https://storage.googleapis.com/deepmind-media/gemini/gemini_v1_5_report.pdf)
14. Google Gemini 3 Pro + Box AI: True Enterprise Reasoning for Real Workflows - YouTube, 11 月 20, 2025 にアクセス、[https://www.youtube.com/watch?v=lqmHn\\_9OF5w](https://www.youtube.com/watch?v=lqmHn_9OF5w)
15. Novelty search: how AI is transforming patent prior art analysis - Patsnap, 11 月 20, 2025 にアクセス、<https://www.patsnap.com/resources/blog/novelty-search-prior-art-analysis/>
16. Bioinformatics Computing - UFV, 11 月 20, 2025 にアクセス、<ftp://ftp.ufv.br/dbg/material%20curso%20bioinfo/Leitura%20Complementar/livros/Bioinformatics.Computing.pdf>

17. AIPatent Search Tools for FTO Analysis: 2025 Guide - Patsnap, 11 月 20, 2025 にアクセス、<https://www.patsnap.com/resources/blog/articles/ai-patent-search-tools-fto-analysis-2025/>
18. Beyond Language: How Multimodal AI Sees the Bigger Picture - PatentNext, 11 月 20, 2025 にアクセス、<https://www.patentnext.com/2024/01/beyond-language-how-multimodal-ai-sees-the-bigger-picture/>
19. How to Use Gemini to Generate Flowcharts with Mermaid and Visualize Them in draw.io, 11 月 20, 2025 にアクセス、<https://kuanhoong.medium.com/how-to-use-gemini-to-generate-flowcharts-with-mermaid-and-visualize-them-in-draw-io-79b9b662510d>
20. Google launches Antigravity AI coding tool that may function like junior developers, raises job loss fear, 11 月 20, 2025 にアクセス、<https://www.indiatoday.in/technology/news/story/google-launches-antigravity-ai-coding-tool-that-may-function-like-junior-developers-raises-job-loss-fear-2822497-2025-11-19>
21. Introducing Google Antigravity, a New Era in AI-Assisted Software Development, 11 月 20, 2025 にアクセス、<https://antigravity.google/blog/introducing-google-antigravity>
22. Agentic Search for Prior Art: AI Patentability Analysis Redefined - DeepIP, 11 月 20, 2025 にアクセス、<https://www.deepip.ai/blog/agentic-search-prior-art>
23. A - Freedom To Operate (FTO) Search Using SciSpace Agent, 11 月 20, 2025 にアクセス、<https://scispace.com/agents/freedom-to-operate-search-yhk4qoxu>
24. AIPrior Art Search with Novelty Checker LLM - XLSCOUT, 11 月 20, 2025 にアクセス、<https://xlscout.ai/novelty-checker-llm/>
25. Google's Gemini 3: A Deep Dive Into the Next Era of Agentic AI - Skywork.ai, 11 月 20, 2025 にアクセス、<https://skywork.ai/skypage/en/google-gemini-agentic-ai/1990964118582943744>
26. PatentLMM: Large Multimodal Model for Generating Descriptions for Patent Figures - arXiv, 11 月 20, 2025 にアクセス、<https://arxiv.org/html/2501.15074v1>
27. Understanding How to Patent Agentic AI Systems | Mintz, 11 月 20, 2025 にアクセス、<https://www.mintz.com/insights-center/viewpoints/2231/2025-03-19-understanding-how-patent-agentic-ai-systems>
28. AIPatent Analysis: Benefits, Challenges, and Best Practices - Solve Intelligence, 11 月 20, 2025 にアクセス、<https://www.solveintelligence.com/blog/post/ai-patent-analysis-benefits-challenges-and-best-practices>
29. A complete list of AIPatent tools in 2025 - Patenttext, 11 月 20, 2025 にアクセス、<https://www.patenttext.com/blog-posts/a-complete-list-of-ai-patent-tools>
30. Google Gemini 3.0 Pro model card released, with multimodal capabilities significantly ahead of competitors - Longbridge, 11 月 20, 2025 にアクセス、<https://longbridge.com/en/news/266413372>
31. Automated Law – IP Chimp, 11 月 20, 2025 にアクセス、<https://ipchimp.co.uk/category/automated-law/>

32. Can Long-Context Large Language Models Do Your Job? - IP Chimp, 11 月 20, 2025 にアクセス、 <https://ipchimp.co.uk/2024/03/15/can-long-context-large-language-models-do-your-job/>
33. Testing Gemini 3 Pro in Box AI: High Accuracy on Workflows with Complex Reasoning, 11 月 20, 2025 にアクセス、 <https://m.youtube.com/watch?v=80wU7Su8fQw>
34. AIPatent Infringement Analysis with ClaimChart LLM - XLSCOUT, 11 月 20, 2025 にアクセス、 <https://xlscout.ai/claimchart-llm/>
35. Patent Claim Charting Powered by AI- Patlytics, 11 月 20, 2025 にアクセス、 <https://www.patlytics.ai/claim-charts>
36. Gemini Deep Research for Writers: 8-Month Testing Results, Time Savings & Real Limits (2025) - Skywork ai, 11 月 20, 2025 にアクセス、 <https://skywork.ai/blog/ai-agent/gemini-for-writers/>
37. Better Call CLAUSE: A Discrepancy Benchmark for Auditing LLMs Legal Reasoning Capabilities - arXiv, 11 月 20, 2025 にアクセス、 <https://arxiv.org/html/2511.00340v1>
38. A new era of intelligence with Gemini 3 - Google Blog, 11 月 20, 2025 にアクセス、 <https://blog.google/products/gemini/gemini-3/>
39. 5 things to try with Gemini 3 Pro in Gemini CLI - Google Developers Blog, 11 月 20, 2025 にアクセス、 <https://developers.googleblog.com/en/5-things-to-try-with-gemini-3-pro-in-gemini-cli/>
40. Google Antigravity AI - What is it?, 11 月 20, 2025 にアクセス、 <https://www.cension.ai/blog/google-antigravity-ai-what-is-it/>
41. Use of AI in the patent industry: The spectre of hallucination - Evolve IP, 11 月 20, 2025 にアクセス、 <https://evolve-ip.com/use-of-ai-in-the-patent-industry-the-spectre-of-hallucination/>
42. Gemini 3 Pro, DeepThink, and Antigravity | by Yuri Trukhin - Medium, 11 月 20, 2025 にアクセス、 <https://medium.com/trukhinyuri/gemini-3-pro-deepthink-and-antigravity-7cbdce2a9137>
43. Thinking | Generative AI on Vertex AI - Google Cloud Documentation, 11 月 20, 2025 にアクセス、 <https://docs.cloud.google.com/vertex-ai/generative-ai/docs/thinking>
44. Grounding with Google Maps | Gemini API - Google AI for Developers, 11 月 20, 2025 にアクセス、 <https://ai.google.dev/gemini-api/docs/maps-grounding>